

各団体へのヒアリング

<p>現 状</p>	<p>＜自然・農＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森が荒れて獣害が増えている。川の水がすぐにごる。雨の後、山から川に流れてるのが早い。涵養性が低い。 ・ 木材の価格が下落し、バイオマス燃料やパルプ材料になることも多く、用材としての利用は減っている。 ・ 丹波は檜が多く植栽され、伐倒適期となる 60 年を過ぎたものも多い。 ・ 平成になってからは山だけで経済が回らない。 ・ 山の個人所有者が分からなくなるケースがでてきた。 ・ 林業へ関心をもつ人が減った。 ・ 林業の昔からの技術継承ができる人が激減 ・ 薪ストーブ利用者が増加し、薪が不足 ・ 丹波は「農業」と「観光」のまち <p>＜人・生活＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 丹波地域にも移住者が増えた。 ・ 高齢化で新規加入者もなく、会員が大幅に減り休会や解散に。 ・ 施設への入居者が増えた。 ・ コロナ禍でネットを使った販売へ移行 ・ コロナの影響でイベントの場づくりがしにくい。 ・ コロナの影響で貸し付け相談が増加 ・ 移動販売車が大きく減少 ・ 外国人のほとんどは「①技能実習」「②技術人文知識国際業務（技人国）」で、①は日本語能力試験 3 級以上が必要。②は技術の優れた人が来るので、日本語ができない人もある。 ・ 丹波篠山市はブラジルから来る人が多かったが最近、ベトナムから来る人も多い。丹波市は中国が多い。
<p>過 去 か ら の 変 化</p>	<p>＜自然・農＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山、森が荒廃して獣害が増えた。 ・ 人の山へ入ることが悪いことのような風潮がある。 ・ 林業は高性能林業機械が発展し、伐採のリスクは大きく減ったが、機械は高価格で環境に配慮したものに変化 ・ 木材の地元利用が大幅に減っている。 ・ 獣害が増え、植栽して、ネットをかけても鹿が食べてしまう。 ・ 間伐の期間が冬中心から年中に変わった。 ・ 山の樹種にも変化 ・ 丹波篠山のブランド力が高まってきた。 <p>＜人・生活＞</p>

<p>過去からの変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古民家改修や農家民宿も増えた。 ・人口が減少、空き家、一人暮らし、高齢者が増え、子どもが減って、学校も複式学級や統廃合に。 ・自分で地域を動かしていく“プレイヤー”が増加。その人がまた別の“プレイヤー”を呼ぶ流れができてきた。 ・“プレイヤー”は移住者に多い。 ・共働き世帯が増え、親が忙しくなって、専業主婦と言われる人がいなくなった。子どもも忙しくなった。 ・愛着障害（発達障害）の子が増えている。 ・ひきこもりが増加し、半分以上が40歳以上。 ・ひきこもりが長期化。ネット社会でゲームで過ごし、ネットゲームで褒められ体験をしてしまい、ますます長期化する。 ・昔の子と比べて「これはダメだ」ということを自分で経験して考えることがなくなり、親がルールを敷いて決まったことをさせている。 ・大人が子どもに説明をしなくなった。 ・家族会議が少なくなった。 ・人が減って役員のなり手が無い ・人と人のつながりが希薄化。人と関わるのが面倒という人がある。 ・自分に時間の余裕がなくなった。 ・コロナでデイサービスに行けず家族の介護の負担がふえた。 ・外国人の生活支援や悩みごとの相談体制が充実してきた。 ・食の趣向が変わって高級志向から自然派に ・デジタル化やSNSの普及 ・丹南篠山インターチェンジ付近や商店街に店が増えた。 　　<その他> ・大きなイベントがない地域と言われていたが、週末の小さなイベントが毎週あるのもよいという風潮 ・公的サービスだけに頼れる時代ではない。
<p>地域の強み・特性</p>	<ul style="list-style-type: none"> 　　<自然・農> ・自然があって四季が感じられる。 ・よい檜材が多い。（真ん丸で芯が中心にある） ・畑作業ができる。 ・食・農業・観光 ・黒大豆が農業遺産に。 　　<人・生活> ・人が優しく、気さくで人間味があり、住みやすい。 ・地域が密なので、いいことも悪いこともなんでも噂になる。

<p>地域の強み・特性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつができる人が多い。 ・協力的な人が多い ・ちょっと楽しむ田舎 ・何度も来て、好きになって、定住してもらえる地域 ・雰囲気（移住者の声） ・人間同士のつながりがある。 　　<その他> ・災害が少ない。 ・恐竜
<p>地域課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> 　　<自然・農> ・山間部が過疎化 ・鳥獣害 ・木材の地元消費 ・山に対する人の意識改革 ・山の所有者が代わり、山に感心がない人が増えている。 ・山の所有者が分からない。 ・山の所有がお荷物になっている。 ・丹波市は全てが中途半端。秀でるものがない。 ・特産品がありすぎて、スターになるものがない。6次産業化ができていない。1年を通じてPRするものがない。 ・高校で農薬を使った農法を指導している。 　　<人・生活> ・少子高齢化が進んで、マンパワーが不足 ・地元高校の定員割れが続き、高校の時点で地元を出た若者が帰って来ない。 ・若者の集う場所がない。 ・若い人が働きたい場所がない。 ・若い人に共働きが多く地域活動まで手が回らない。表に出てこない。 ・市内の郊外から中心地への引っ越しが増え、人口は減っているのに戸数が増加 ・3世代が同じ市内にいるのに、別々に暮らしている。 ・田舎なのに待機児童がある。 ・観光地としては便利になりすぎるのもマイナス ・恐竜や紅葉でも地域にお金がおちない。 ・空き家が多い、増えている（持ち主がなかなか帰って来ず、売りにもだせない）。 ・村入り費用が高い。不動産業者が村入り費用の説明をせず移住し、トラブル

<p>地域課題・問題点</p>	<p>ルになるケースがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹波地域は閉鎖的で皆同じようにしないといけない。 ・丹波の人は完璧を求める。町中に大きな公園がないが、なくても楽しめる、自分だけが見つけた楽しみをみつけてほしい。 ・丹波地域の足りないところは、「発信」「伝える」こと。情報がうまく扱えていない。 ・高齢者にデジタルリテラシーが不足 ・公共交通の不便さ、高齢者の移動手段や買い物弱者をどう支えていくか。 ・外国から来た移住者に対しての日本語教育と母語教育 ・給食も業者委託し、どこの食材を使っているか分からない。地元食材を使う。 ・外国人への支援（自治会単位程度の小さい単位での支援） ・外国人のまなびの場所
<p>30年後も残っているもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ＜自然・農＞ ・山 ・自然や四季の移り変わり ・丹波の食 ・農業の特産物 ・農、大型農家 ＜人・生活＞ ・ひきこもり社会（もっと長期化、高齢化、孤立化している。） ・地域のまつり・デカンショ祭り ・城下町の景観や歴史ある文化遺産 ・資源のよさや環境のよさ
<p>今後必要なもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ＜自然・農＞ ・山が変われば生活が変わる。加古川の源流を守る。 ・スマート林業の進化 ・森林管理。5年ごとくらいに間伐をして陽当たりをよくして涵養性の高い森に。 ・森林環境譲与税を使った里山林整備をしているが、もっと小さな単位でも里山林整備ができるように。 ・よい檜材の地元利用 ・市外の地主対策 ・自然 ・農家の横のつながり ・丹波ブランドの一定の供給量とそのため生産体制 ・太陽光発電のないまちづくり（田んぼが太陽光発電施設に）

<p>今後必要なもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校教育は利益を求めらるものでないで、有機農法を指導する。 ・ 官庁からのPR（高層木造庁舎等の建築） 　　<人・生活> ・ 3世代同居 ・ 女性の登用。女性が元気なまちづくり ・ 子どもが住みやすい地域になって欲しい。 ・ 空き家に1ヶ月程度の短期滞在ができるシステムがあればよい。 ・ 子どもたちが「丹波はふるさとだ」と思える教育 ・ 地元の高校に普通科以外で地域のこと、ここにしかない学科があれば。 ・ 大学の誘致、企業誘致 ・ 若者が働く場所、おしゃれな働き場 ・ 岡山の美観地区のように「観光」と「住」を棲み分ける。 ・ 観光の中に生活があるのも貴重 ・ 地元の個人商店 ・ 移動手段の整備（移住者が車のリースをしやすいように） ・ 事業や施設の整理、縮小 ・ 外国人定住者へ対してのこどもの教育 ・ 外から来た人へのサポート体制 ・ お年寄りを助けること ・ 「丹波のカラー」を発信していくこと ・ 今あるものを活用する。 ・ 地域内の交流 ・ だれでもが参加して交流しやすい体制づくり ・ 外国人も企画段階から参加できる仕組み ・ 病院にも多言語スタッフを配備 ・ 外国人の交通支援
<p>2050年を想像して</p>	<ul style="list-style-type: none"> 　　<自然・農> ・ 「丹波の森」を活かせればよい。 ・ 山が人を呼ぶ地域に ・ スマート林業が進み、山が畑化する。 ・ 丹波材を使ったLCT建築が普及 ・ バイオマスで地域全体の発電 ・ 誰でも山に入りやすくなっている。 ・ 丹波は源流。きれいな水を保つための豊かな森づくりを。 ・ 「野生」「人間」「IT」が共存する社会になる。 ・ 田園風景が残りつつ生活するのに便利なまち ・ 空き家や耕作放棄地が増える。

<p>2050 年 を 想 像 し て</p>	<p>＜人・生活＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と人が触れ合う文化が残っていて欲しい。 ・人づきあいしやすい地域が暮らしやすい地域 ・昔のような意識しなくてもできた人づきあいができる地域に。 ・若い人が多く、三世代同居が増えて欲しい。 ・旧学区に1つは小学校が欲しい。 ・何らかの形でトライやるウィークが残っていて欲しい。 ・ひきこもりの人も増えている。 ・若い子に魅力を与える地域になってほしい。 ・「水分かれ」を「決断」のスポット・聖地にし、そこへ行くまで道を「決断の道」としたい。 ・外国人も遠く離れた国に出稼ぎに行くのではなく、家族と自国で暮らすのが一番という時代になっている。 ・ナショナリズムがトレンドになっている。 ・それぞれの価値を認め合い好きなことをして食べていける時代に。 ・自殺がゼロになる時代
<p>そ の 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・丹波の森構想とあるが、昔は生活に木が必要だったが、今では山に入る必要がなくなった。 ・2mの鹿柵をしていてもそれを越えて農作物を荒らしてしまう。やる気がうせる。 ・獣害のないような豊かな森になって欲しい。 ・特用林産物（松茸など）の復帰があれば。 ・都会の人は田舎の山を守るためだけに県民緑税がつかわれていると思って不平等感を唱える人も多いが、豊かな海は豊かな山が作るということを知って欲しい。 ・空き家は増えているが、その所有者を第二の村民として賦課金をもらって、空き家に何かあればすぐ連絡がとれる体制をとっている。 ・「まつり」を通じた人づくりが地域を作る。 ・体験が人を成長させる。